

夜間の震災備え訓練

少ない人員での対応確認

西宮の病院

南海トラフ巨大地震に備えた避難訓練がこのほど、西宮市上鳴尾町の明和病院であった。病院スタッフが少なくなる夜間に、地震が起きたと想定。医師や看護師ら約40人が災害時の対応を確認した。

毎年実施する防災訓練の一環。夜間にマグニチュード(M)9の地震が発生。津波が10分後に押し寄せ、病院が約30分浸水したという想定で行われた。

階段は狭いため、担架は使えない。患者をシートで身体ごと包

み、4人がかりで搬送。患者の身体に負担がからないよう、高さや角度を考えながら階段で上った。また、医療機器を浸水から守るため、機器のある部屋の入り口に土のうを並べていった。

同病院の沖田明弘事務部長はスタッフに対し「実際の災害はパニック状態。水道管が破裂したり、床に物が散乱したり、最悪の状況を考えて勤務に当たって」と話していた。

(山脇未菜美)



シートを担架替わりにし、患者を2階に運んでいく医師たち＝西宮市上鳴尾町